

令和2年度 第2回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ：子どもを主役とした保育の提供について

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、保育の分野で活躍されている皆さま、将来、保育の分野を目指している学生の皆さまと、保育の提供における課題などについて意見交換を行いました。

【日時場所】 令和2年10月27日(火) 午後1時30分から 県庁防災新館1階オープンスクエア

【対話相手】 保育関係者、保育士養成校の教員及び学生 12名

(主な意見等)

- 山梨県は、全ての子どもたちが同じ地域で育ち合えるような多様性の認められる社会になってほしいし、そういう姿勢であることを、リーダーのメッセージとして伝えて頂けるとありがたい。
- 保育環境を整えるための国の各種加算制度を、市町村が必ず取りに行くように県でも働きかけてもらいたい。
- 保育園、幼稚園などにおける新型コロナウイルス感染症に対するガイドラインを策定してもらいたい。
- 人材確保のために、有資格者の潜在保育士の人たちが登録できるシステムがあるとありがたい。
- 保育士の予想を超えた子どもの成長、発見や行動が見られたときに、保育の現場にいる醍醐味だと感じている。

(知事(県)の主な発言)

- 働かされている方の目から見ても魅力ある場所、これから働こうとされている方にとっても魅力ある場所をつくるのが重要だと考えている。
- 本県の恵まれた環境を生かして、自然保育に力を入れ、これからのセールスポイントにしようと考えている。
- 子どもを保育園に年度途中でも、また、送迎に無理のない場所に入園できるような環境を整えることを目標とし、そのために必要となるシステムづくりやネットワークづくりの可能性を探っていきたい。
- 全ての子どもの可能性を潰さずに、子どもの可能性をしっかりと引き出し、また、障害がある子どもや家庭環境に関わらず、子どもたちが笑顔で安心して幸せに暮らせる山梨県をつくっていきたい。
- 新型コロナウイルス感染症に対するガイドラインについては、保育関係者の皆さま、感染症の専門家などと議論する中で策定を進めていきたい。

